

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立羽山台小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒837-0917
福岡県大牟田市大字草木587の3

E-mail : hayamadai-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/hayamadai-es/

児童生徒数：男子 197名 女子 187名 合計 384名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

ア 本校のESDの特徴

本校では、福祉教育を中心に据えながらESDを推進している。1年生から6年生まで発達段階に応じながら計画的に福祉教育を継続し、住みよい社会をつくるために思いやりや助け合いの心を持つ子どもの育成をめざし、主に生活科や総合的な学習の時間において実践している。

イ ユネスコスクールとしての活動・全体計画

プロジェクト名「羽山っ子だれかのためにプロジェクト」

(ア) 1年生「むかしからのあそびをしよう」(生活科1月)

(イ) 2年生「おれいの気もちをつたえよう」(生活科2月)

(ウ) 3年生「よりよいくらしについて考えよう」(総合的な学習の時間10月)

(エ) 4年生「わたしたちの生活について考えよう」(総合的な学習の時間2月)

(オ) 5年生「住みよいくらし」(総合的な学習の時間5月)

(カ) 6年生「心のふれあい、伝えあい」(総合的な学習の時間10～11月)

ウ 特徴的な活動事例の紹介

6年生「心のふれあい、伝えあい」(総合的な学習の時間10～11月)

(ア) 目標

- 高齢者の方とのふれあいを通して、生き方を学び、また互いのよさを分かりあうことで、高齢化社会へ向けて、共に生きていくことの大切さに気付く。

(イ) 実践の展開

a 高齢者体験

疑似体験を通し、高齢者の方は自分たちが思っている以上に周りが見えにくいし、体が重く感じられること、また、思うように肘や膝を曲げられないこと等に気付かせた。この体験をもとに老人保健施設での交流への関心を高めた。

b 1回目の交流

1回目の交流では、全体での出し物(歌やリコーダー奏・手遊び)をして、その後にペアやグループで自由にお話をするようにした。歌や手遊びは、高齢者の方が知っているような歌を考え、四季を意識して歌を選んでいった。

c 2回目の交流

子どもたちは、1回目の交流の全体での出し物に加えて、グループごとに出し物を行うことにした。特にグループの出し物をメインに行い、より楽しんでもらうことを考えて準備に取り組んだ。折り紙、あやとり、風船バレー、すごろく、お絵かき、工作等、たくさんのアイデアを出しながら、どの内容が高齢者の方にあるかを話し合いながら検討していった。

d ボランティアパスポートの取組

本校では、「特定非営利活動法人さわやか青少年センター」が行っているボランティアパスポートの取組を上記のような学習に関連させて行った。この取組では、学校で行うボランティア体験学習や学校外の時に個人で行うボランティア活動のたびに、パスポートにその時の感想を記していくことにしている。取組終了時にパスポートをセンターに送る際、6つの社会貢献団体の中から応援したい団体を選ぶことで、その社会貢献団体に寄付を行うことにつながるという仕組みである。年間を通して、全学年で取り組んだ結果、合計255ポイントがそれぞれの社会貢献団体に寄付されることとなった。

e 赤い羽根共同募金の取組

6年生は、PTAバザー等の時に「赤い羽根共同募金活動」を行い、教職員や保護者、地域住民からの募金を集め、社会福祉協議会に寄付をした。活動を通し、共にみんなが幸せに生きていくために、人と人とお互いに支え合うことの大切さを学んでいた。

(ウ) 成果と課題

疑似体験セットを活用して、廊下を歩いてみたり階段の上り下りをしたりしたことで、高齢者の方の様子を体感することができた。車いすを利用されたりゆっくり活動されたりする理由がはっきりし、交流への動機付けに効果的であった。

老人保健施設では、2回の交流を行った。1回目目は高齢者の方と仲良くすることを目的とし、2回目目は自分たちが様々な出し物を準備して、より楽しんでいただくための活動を行った。人の役に立つ喜びやそのためにがんばること等、体験する中で学ぶことができた。反面、1回あたりが約1時間の交流であった。もう少し時間をとって、子どもたちが十分に取り組むことができるような場の設定が必要である。

エ 本年度の成果と課題

(ア) 成果

ユネスコスクール子どもサミットでの発表を含め、今までの活動の中で、次のような子どもの姿が見られるようになった。教育の質の向上に効果があったと思われる。

- ・子どもたちに高齢者の方や体に障害がある方に対する思いやりの心が育ってきた。
- ・自分の思いを他者に伝えようとする意欲や積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育ってきた。

(イ) 課題

本校における福祉教育を中心としたESDの取組は、なにより継続が大切であるとの考えから、毎年着実に取り組んでいくようにする。平成27年度においては、各学年の段階に応じながら内容を系統立て、さらに継続して取り組みたい。また、学校だけで完結させるものではなく、家庭や地域、事業者等との連携をさらに密にしながら、共生の意識や意欲、実践力を養っていくようにする。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）